

13
もーせ

聖徒伝 39

「主なるメシアを 待ち望む」

レビ記17~24章

分離の規定・聖なる祭り

レビ記③

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 聖なる民・分離の規定 17～20章

II. 聖なる祭司 21～22章

III. 聖なる祭り 23章

IV. まとめと適用

イスラエルの祭りとメシア

今、待ち望むべきこと



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

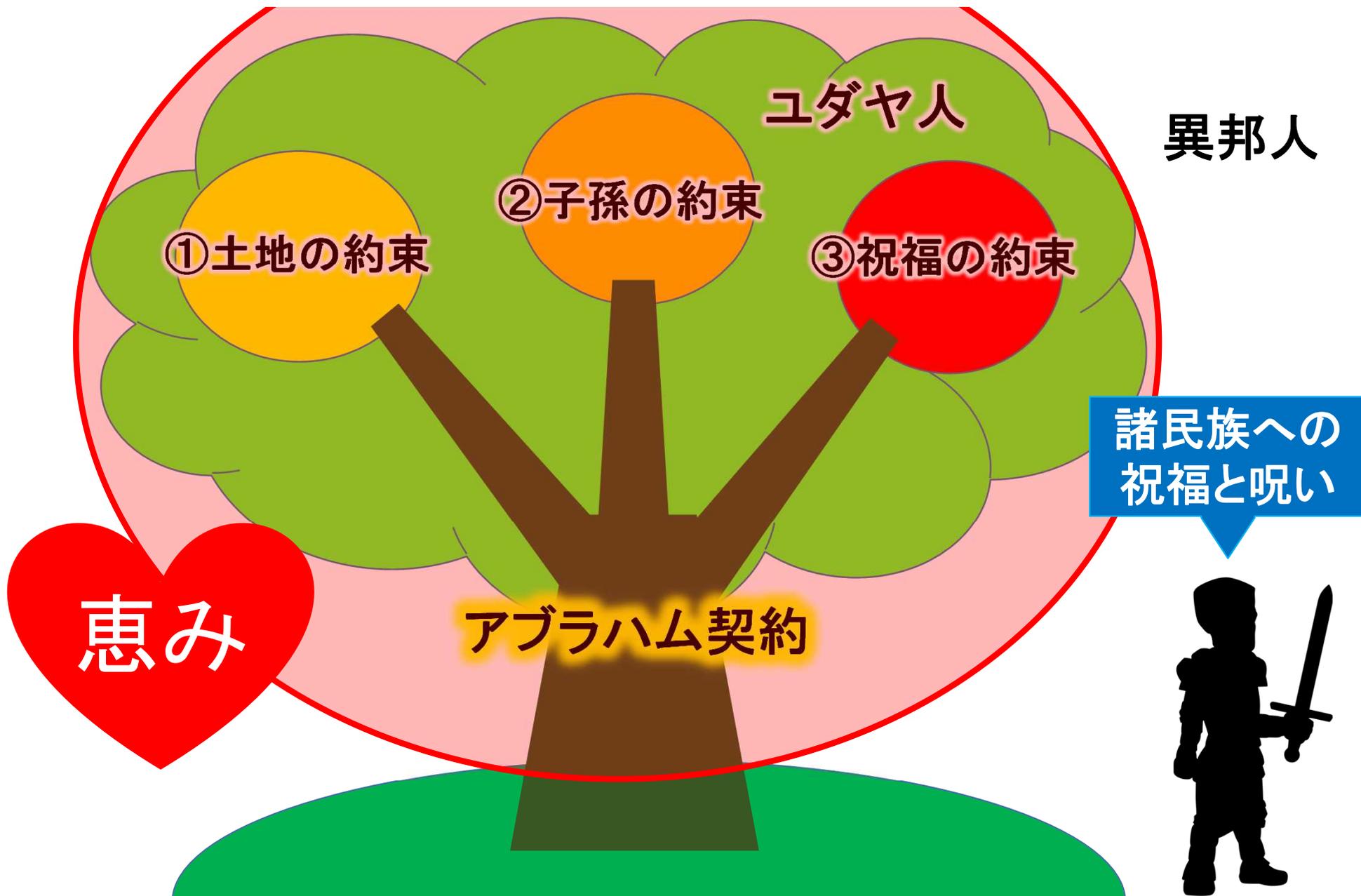
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

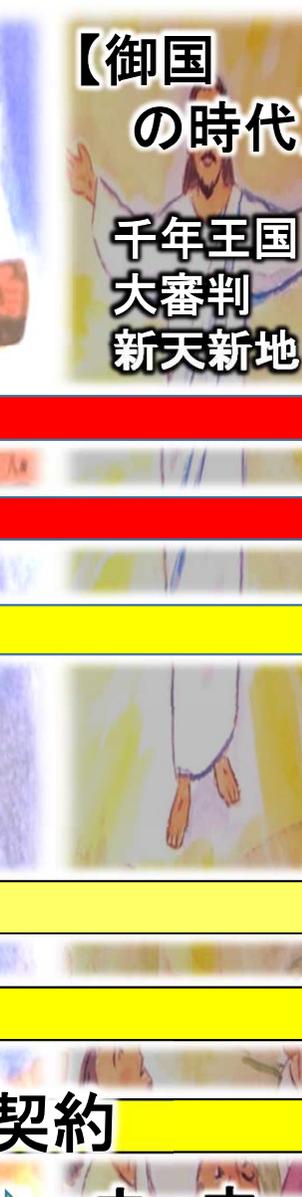
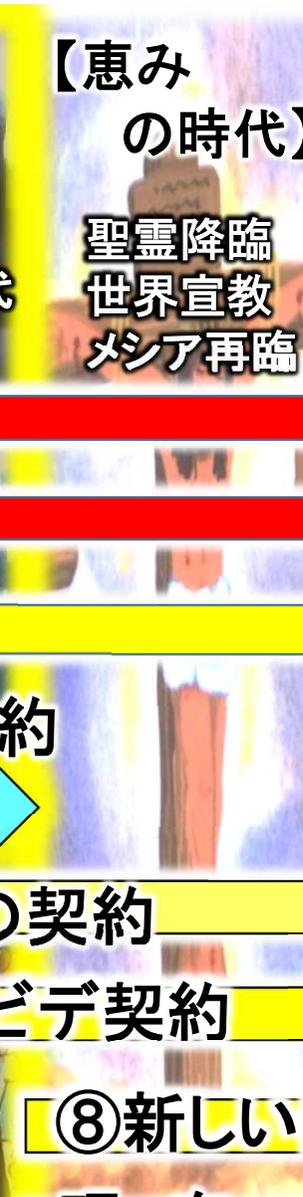
※しるし ...割礼

アブラハム契約が、
イスラエルを守り、導いた!!



【アブラハム契約】





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

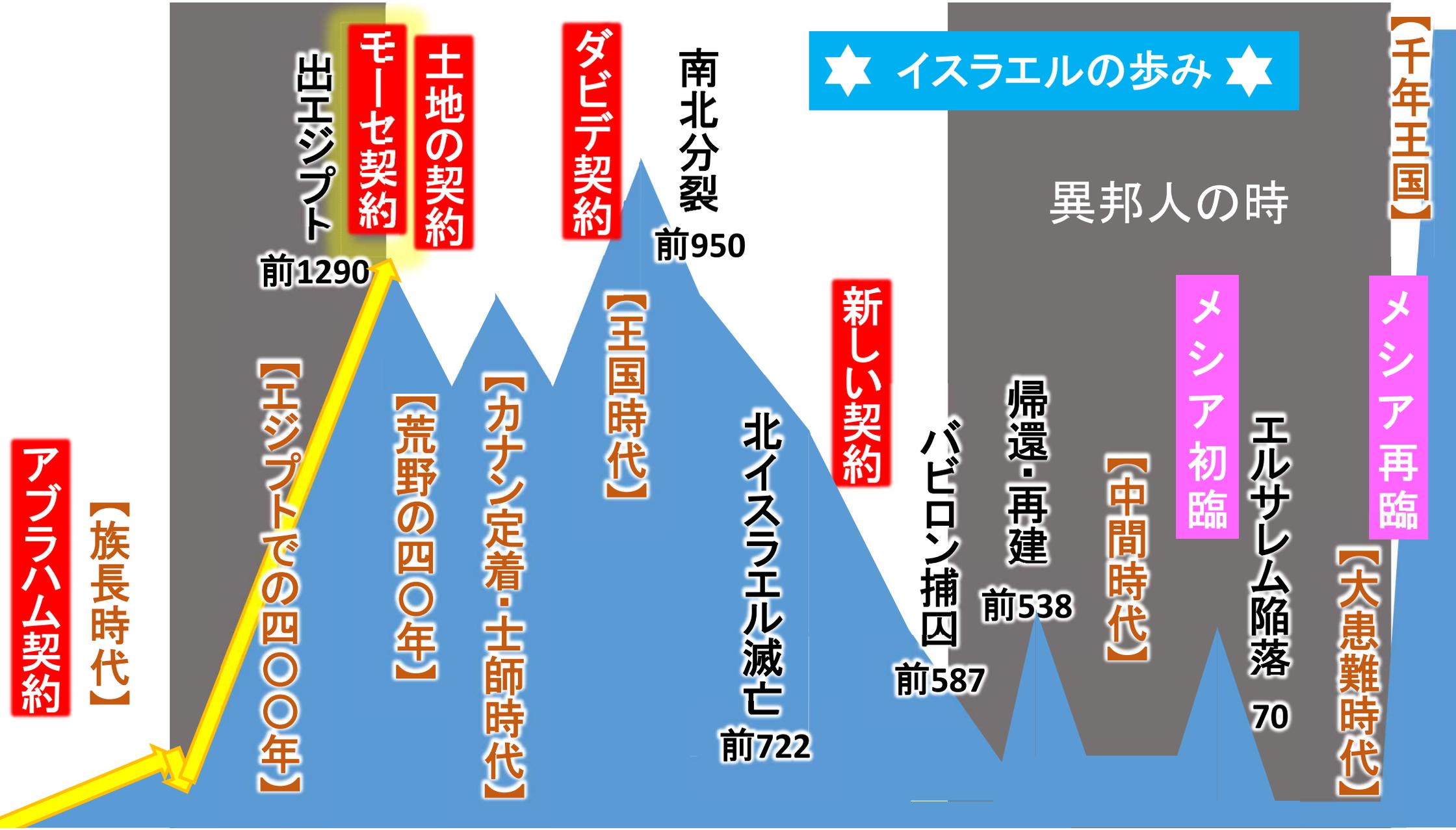
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡

バビロン捕囚

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

南北分裂

前1290

前950

前587

前538

70

前722

0～40歳

40～80歳

80～120歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に
40才

ミディアン人の娘ツッポラと結婚

荒野での羊飼生活

召命 80才

十の災い

出エジプト

シナイ契約

民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】

【イスラエルの荒野の歩み】

■エジプト → シナイ山まで

3ヶ月

■シナイ山での律法授与

- ① 一度目 40日間
- ② 金の子牛事件
- ③ 二度目 40日間

3ヶ月

■幕屋建設

(律法の学び?!)

6ヶ月

■点呼・出発

1ヶ月後



民数記

【レビ記の主な内容】

■ 祭司の奉仕マニュアル

■ 正しい礼拝の方法

※聖なる国民、祭司の国 イスラエルには重要!!

【レビ記で学ぶこと】

■ 神のきよさ

■ 人の罪の深さ

■ 神との和解には、血による贖いが必要

■ メシアとは、どのような方か

【※注意】 律法自体の役目は終了。

直接、現在に適用するのは間違い!!



【宇宙の法則と救いの法則】

■ ロケットが飛び立つには、
地球の重力を振り切る推進力が必要。

■ なんで重力があるのか？
なんて文句を言っても、仕方がない。

■ 宇宙の法則も、救いの法則も、
それを決めたのは、創造主なる神さま。

■ だから、救われるためには、神に近づくには、
神さまの決めた方法によるしかない。



ですよ？
ニュートン
さん!!

当然!!



I. 聖なる民・分離の規定

レビ記17～20章



【分離の規定の意味すること】 11～15章

「レビ 11:45 あなたがたは聖なる者とならなければならぬ。わたしが聖だからである。」

- 「聖」とは、神の本質的なご性質。
どんな些細な罪も、神とは共存しえない。
- 「聖となる」とは、罪と汚れからの分離・区別。
- イスラエルは、「聖なる神の民」として、
罪と汚れからの、徹底した分離を求められた。
→ 神と人類をとりなす、祭司の国の使命がある。



祭司の国として
イスラエルが
きよめられ

さらに、祭司が
きよめられる!!

【分離の諸規定】 17～20

- ①誤った動物の屠りからの分離 17章
- ②性的悪習からの分離 18章
- ③靈的姦淫や貪欲、不義からの分離 19章
- ④死にいたる靈的・性的姦淫からの分離 20章

■イスラエル全体も、祭司の国であり、
聖であり、世と分離されることが求められている。

➡とりわけ、意識されているのは、約束の地カナンに
蔓延している、様々な罪、悪習、偶像礼拝。



【①誤った動物の屠りからの分離】 17章

■ 荒野の生活における期間限定の時限立法。

➡ 荒野の主食はマナ。肉は、うずらが与えられた。

■ 家畜を屠って食べる時は、

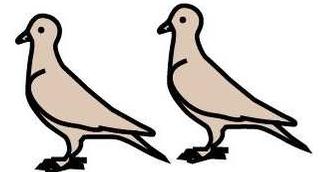
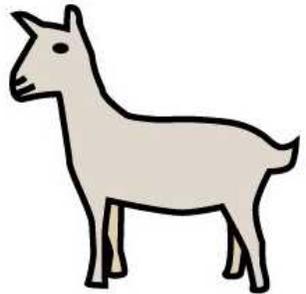
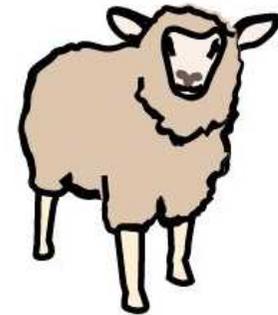
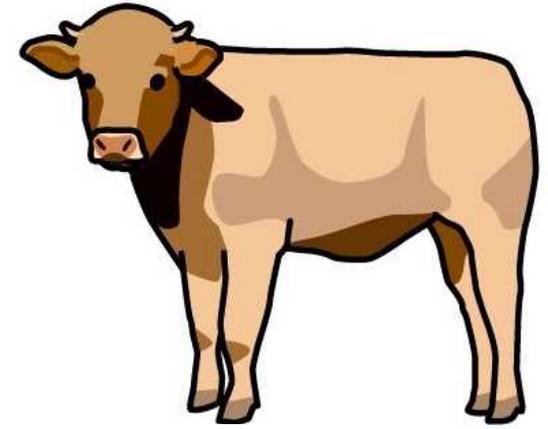
必ず、「交わり(和解)のいけにえ」にすること！

■ 必ず宿営の内で屠る。

➡ 隠れたところで、偶像礼拝に陥らないように。

➡ 犠牲にまつわる、様々な異教的儀式があった。

例) タブレットは、リビングで使おう、みたいなこと？



【①誤った動物の屠りからの分離】 17章

■ 血を食べることの禁止。

➡ノア契約(創9:4)以来の禁止事項がさらに詳細に。
「レビ 17:11 実に、肉のいのちは血の中にある。わたしは、祭壇の上であなたがたのたましいのために宥めを行うよう、これをあなたがたに与えた。いのちとして宥めを行うのは血である。」

■ 罪の贖いは、血によらなければならない。

➡神が決められた原則。

■ 究極の罪の贖いは、キリストの十字架の血による。



【②性的悪習からの分離】 18章

■ 異邦の性的悪習を避けるべき理由

「レビ18:4~5 わたしの定めを行い、わたしの掟を守り、それらの中にあって歩まなければならない。わたしがあなたがたの神、【主】である。あなたがたは、わたしの掟とわたしの定めを守りなさい。人がそれらを行うなら、それらによって生きる。わたしは【主】である。」

■ 神は、一方的に宣言されているだけ。

➡ 人の反応は、二つに一つ。

従うか、従わないか。「はい」か、「いいえ」か。

➡ その結果として、生きるか。滅ぶか。



【②性的悪習からの分離】 18章

■ 禁止された様々な性行為。性的関係

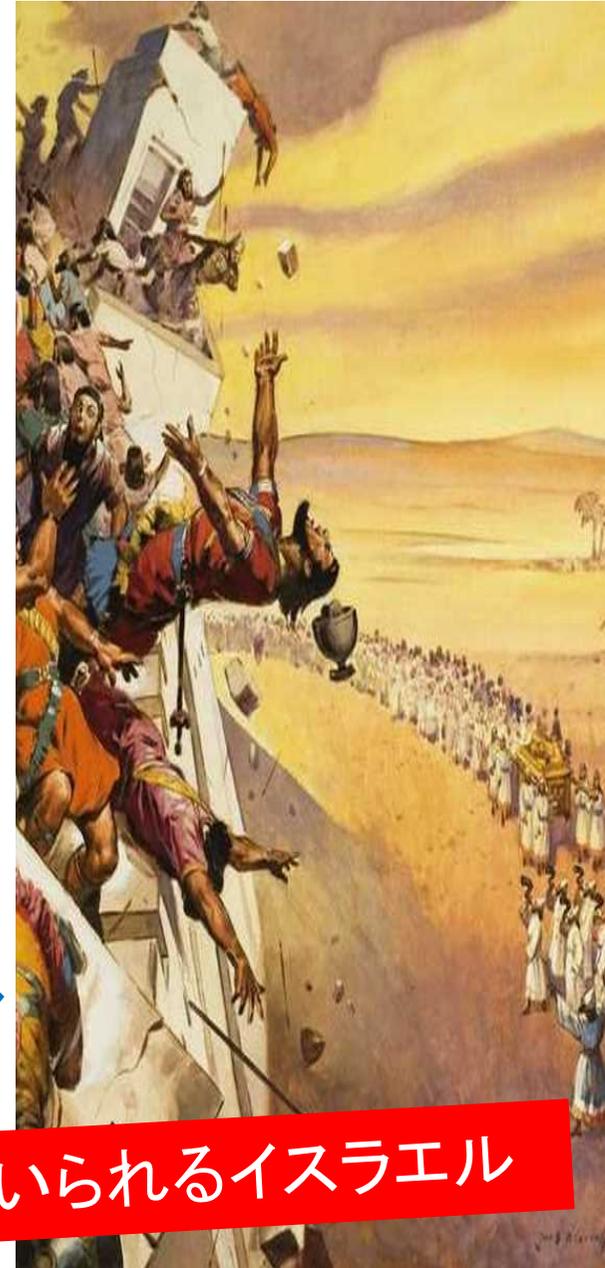
➡ ゆるされているのは、結婚した夫婦間だけ！

■ 約束の地に蔓延していた偶像礼拝の性的儀式

➡ 羅列されたのは、実際に行われていたこと!!

「レビ18:24～25 あなたがたは、これらの何によっても身を汚してはならない。わたしがあなたがたの前から追い出そうとしている異邦の民は、これらのすべてのことによって汚れていて、その地も汚れている。それで、わたしはその地をその咎のゆえに罰し、その地はそこに住む者を吐き出す。」

裁きの器として用いられるイスラエル



【③靈的姦淫や貪欲、不義からの分離】 19章

■冒頭は、聖なる神の聖なる宣言

「レビ19:2「イスラエルの全会衆に告げよ。あなたがたは聖なる者でなければならない。あなたがたの神、【主】であるわたしが聖だからである。」

■15回繰り返される、神の聖名の宣言。

「わたしはあなたがたの神、【主】である」

■十戒の内容が具体的に確認される。

父母を敬え。偶像礼拝の禁止、偽証の禁止等

■イスラエルの果たすべき義が示される。

弱者の保護、正義の執行、愛の実践。



【③靈的姦淫や貪欲、不義からの分離】 19章

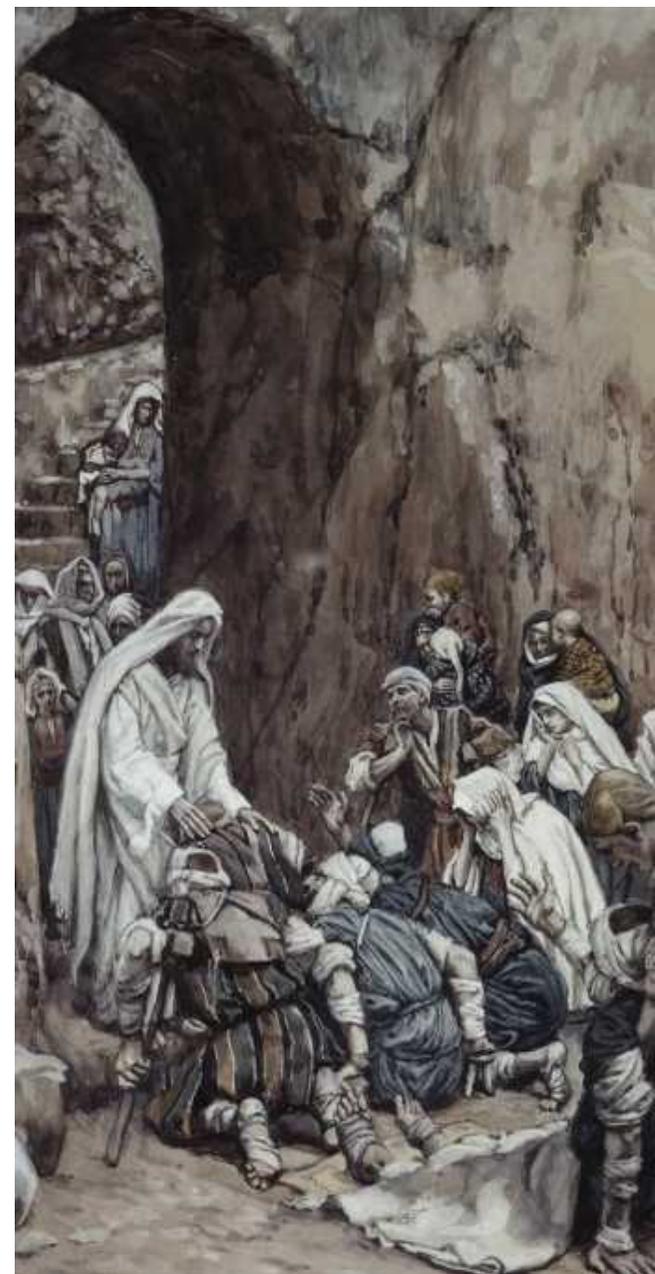
■ 律法の中心・愛の掟

「19:17 心の中で自分の兄弟を憎んではならない。同胞をよく戒めなければならない。そうすれば、彼のゆえに罪責を負うことはない。

19:18 あなたは復讐してはならない。あなたの民の人々に恨みを抱いてはならない。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。わたしは【主】である。」

■ 主イエスは、さらに高い基準を示された。

「ヨハ 13:34 わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」



【④死にいたる霊的・性的姦淫からの分離】 20章

■ 厳命される偶像神モレクの儀式への加担の禁止

➡ 性的儀式と子供の人身供養を伴っていた!!

■ 霊媒、口寄せの呪術の禁止(6節、27節)

■ 偶像礼拝とも関わりの深い様々な性行為の禁止

「23～24 あなたがたは、わたしがあなたがたの前から追い出そうとしている異邦の民の掟に従って歩んではならない。彼らがこれらすべてのことを行ったので、わたしは彼らを甚だしく嫌った。それゆえ、わたしはあなたがたに言った。『あなたがたは彼らの土地を所有するようになる。わたしが乳と蜜の流れる地をあなたがたに与えて所有させる。わたしは、あなたがたを諸民族の中から選り分けた、あなたがたの神、【主】である。』」



Ⅱ. 聖なる祭司

レビ記21～22章



【祭司に関する聖別の諸規定】 21章

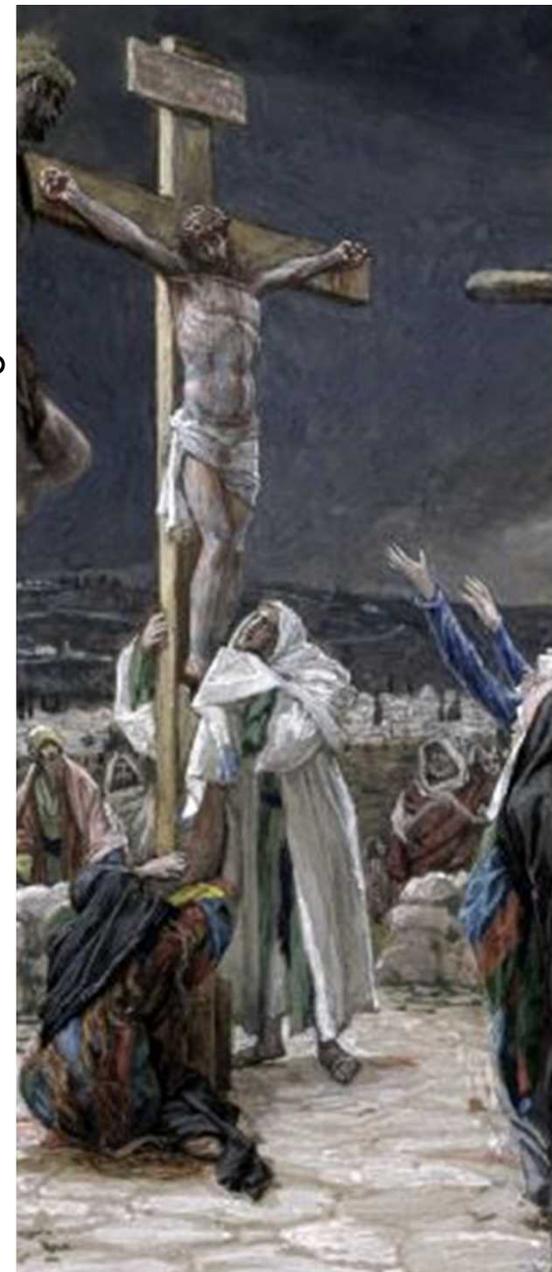
- 幕屋で仕える祭司には、一般のイスラエル以上に厳しく、聖であることが求められた。
 - ごく近い親族以外は、葬儀にも関われなかった。
 - 大祭司は、いかなる遺体に触れることも禁じられた。
 - 結婚相手は、処女だけと認められた。
 - 体に障害のある者は、祭司の務めにつけなかった。
 - ➡ しかし、神から受ける恵みには、境はない。
- 「21:22 しかし神のパンは、最も聖なるものであっても、聖なるものであっても食べることが許される。」
- ➡ キリストに癒やしを求めた人々の律法的根拠。



【祭司のための聖なる食物】 22章

- 捧げ物から取り分けられた聖なる食物は、きよめられた祭司と、その家族だけにゆるされた。
- 捧げものの動物は、傷も欠陥もないことが求められた。

■ 聖なる神との交わりを回復するためには、完全な献身と、完全な犠牲が、必要とされる。
「ヘブル10:11～13 さらに、祭司がみな、毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえを繰り返して献げて、それらは決して罪を除き去ることができませんが、キリストは、罪のために一つのいけにえを献げた後、永遠に神の右の座に着き、あとは、敵がご自分の足台とされるのを待っておられます。」



Ⅲ. 聖なる祭り レビ記23章



【主の例祭】 レビ記23章

■ レビ記23章では、例祭の順序に重点がある。

→ 詳細は、民数記28,29章を参照。

■ 春の例祭(4つ・50日間) + 秋の例祭(3つ・14日間)
(※間に、4ヶ月間の夏季がある)

■ 7つの例祭の内、3つは巡礼祭

① 過越祭 ② 五旬祭 ③ 仮庵祭

→ イスラエルの成人男子は、幕屋or神殿に上った。

イスラエルの祭りは、メシアを表す型・影



【イスラエルの例祭】 レビ23章

■ **安息日** (3節) →最も重要なのは、週ごとの安息日。

※適用) 今の教会時代に大事なものは、
クリスマス、イースターより、週ごとの礼拝。

■ **春の祭り** (5～21節)

①過越祭 ②除酵祭 ③初穂の祭り ④五旬祭

■ **夏季** (23節)

■ **秋の祭り** (24～43節)

⑤ラツパの祭り ⑥贖罪日 ⑦仮庵祭



【春の祭り ①過越祭】 レビ23:5

■ 第1月の14日の夕暮れから。この日が年の始まり。

➡この出エジプトの日に、イスラエル民族が誕生した。

■ 過越祭の過程(出12～13章)

①傷のない一歳の雄山羊or雄羊を選ぶ(10日)

②傷も欠陥もないか吟味する(14日まで)

③夕暮れに屠り、血を門柱とかもいに塗る。*

その夜(15日)、肉を焼き、苦菜、種なしパンと食べる。

立ったまま急いで食べる。* (* 出エジプト時限定)

■ 祭司のための子羊は、15日午前9時に屠られた。

➡キリストが、十字架につけられた時間。

過越祭は、
キリストの受難を示す



【春の祭り ②除酵祭・種なしパンの祭り】 23:6~8

■ 過越祭翌日。第1月15日からの1週間。

■ 家中のパン種が取り除かれた。

➡ 出エジプト時、急いでいて発酵の暇がなかった。

➡ パン種は、罪を示す。罪を取り除くということ。

■ 最初と最後の日は、「聖なる会合の日」

➡ 特別ないけにえをささげ、休んだ。

■ 過越祭・除酵祭と、一つの祭りとして扱われる。

キリストは、罪なき体をささげられた。



【春の祭り ③初穂の祭り】 レビ23:9～14

■ 約束の地に定住してから祝う

■ 除酵祭中の日曜日。

■ 大麦の初穂(最初の収穫)をささげ、
祭司は主に向かって揺り動かした。

■ キリストは、過越祭の日に十字架にかけられ、
三日目の週の初めの日(日曜日)、
すなわち、初穂の祭りの日の朝に復活された!!

キリストは、初穂の祭りの日に、復活した!!



【春の祭り ④五旬祭】 レビ23:15～21

■ 七週の祭り、ペンテコステ(ギリシャ語)

■ 小麦の初穂をささげた。

二つのパン(種入り)を焼き、主に向かって
揺り動かした後、祭司が食べた。

■ 律法の授与を記念する日。

■ キリストの復活から50日後の五旬祭に、
弟子たちに聖霊が降り、教会が誕生した。

■ ささげられる二つのパン(種入り)は、
教会を構成する、ユダヤ人と異邦人を示すもの。
➡キリストにあって罪きよめられ、一つとされた。

五旬祭は、
教会の誕生を示す



【中間期・夏季】 レビ23:22

「あなたがたの土地の収穫を刈り入れるときは、刈るときに畑の隅まで刈り尽くしてはならない。あなたの収穫の落ち穂も集めてはならない。貧しい人と寄留者のために、それらを残しておかなければならない。わたしはあなたがたの神、【主】である。」

■ 春秋の祭りの間の空白の時

➡イスラエルでは乾期。二つの収穫期の狭間。

■ メシアの初臨と再臨の間の教会時代を示す。

滅び行く人々に、救いの福音を伝える時。



中間期は、
教会時代を示す

【秋の祭り ⑤ラツパの祭り】 レビ23:23~25

■ 第7月の第1日の新月の日にラツパ(角笛)を吹き鳴らした。

■ この日は、どんな仕事も禁じられた。

日によるささげ物が献げられた。(民28、29章)

■ 教会の携挙(空中再臨)を予表する日。

「 I コリ15:52 終わりのラツパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラツパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。」

■ 教会時代の最後、携挙が起こり、すべての真の信者が、主イエスのもとに挙げられる。

ラツパの祭りは、
教会の携挙を示す



【秋の祭り ⑥贖罪日】 レビ23:26～32

■ 第7月の10日。ヨムキプール。(詳細は16章)

➡ 特別なささげ物が献げられた。

■ イスラエルの民全体の罪を贖うための日。

➡ 同時に、聖なる神との特別な契約関係を確認した。

■ この日は、身を清める日。断食をし、神の前に悔い改めた、イスラエルにとって最も厳粛な日。

■ 贖罪日は、**大患難時代**を示す。

➡ **大患難時代**は、イスラエルへの裁きの時代。

この時代の最後、イスラエルは民族的回心にいたり、メシアが再臨される。

贖罪日は、
大患難時代を示す



【秋の祭り ⑦仮庵祭】 レビ23:33～44

■ 第7月の15日。7日間+8日目。

■ 特別なささげ物が献げられた。(民数記29章)

➡雄牛は70頭に及ぶ。70の異邦人の国を指す!?

■ 祭りの期間、仮庵(仮小屋)に住む。

➡イスラエルの荒野の日々を覚える。

荒野の日々を通して約束の地に招き入れられた。

■ 仮庵祭は、**メシア的王国(千年王国)**を示す。

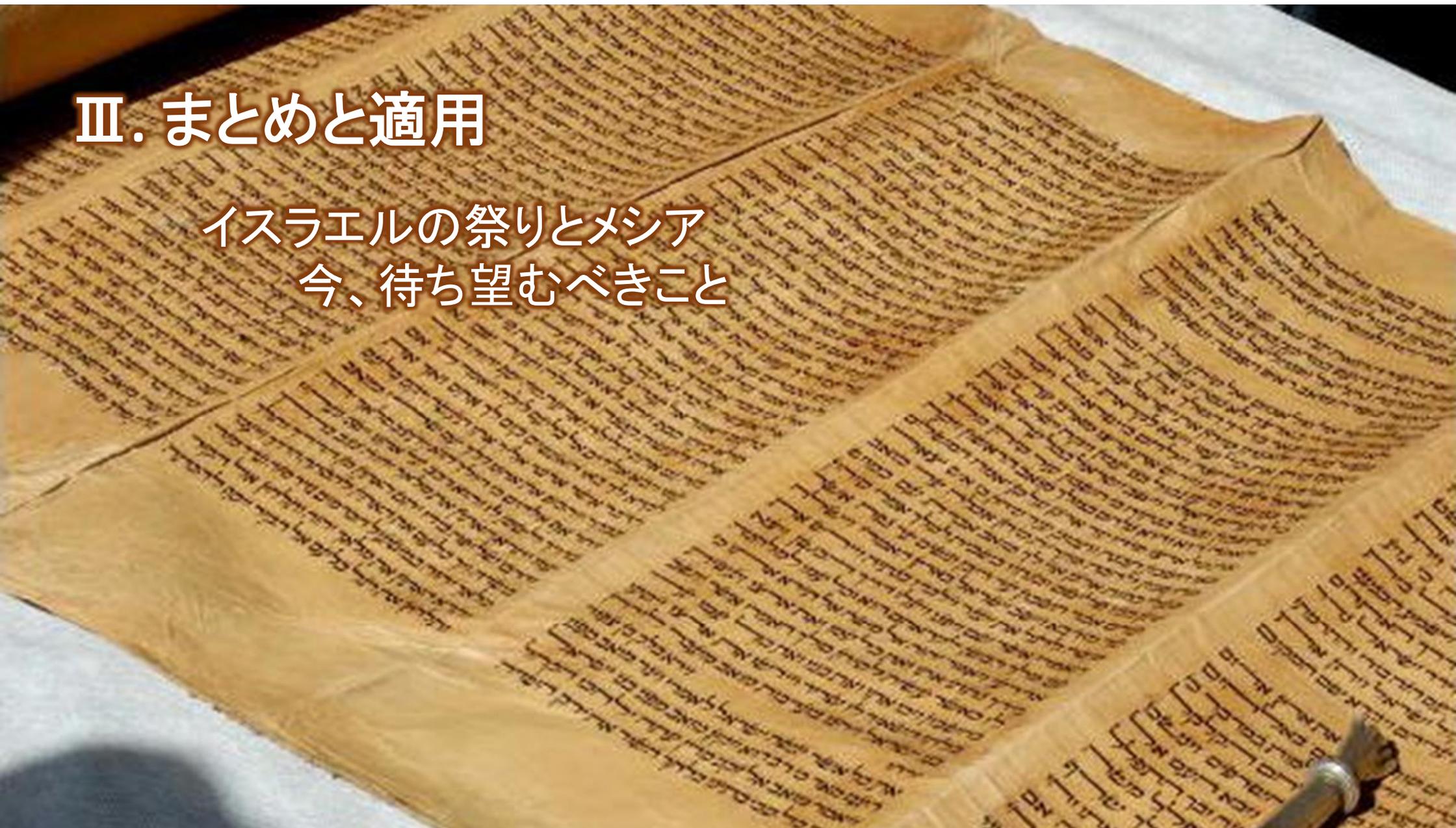
メシアによって、真実の神の王国、イスラエルが、
永遠に立てられる!!

仮庵祭は、
千年王国を示す



Ⅲ. まとめと適用

イスラエルの祭りとメシア
今、待ち望むべきこと



イスラエルの祭りとメシアの生涯

	祭りの名称	レビ記	月	日	太陽暦	メシアの生涯
春の祭り メシアの初臨	①過越の祭り	23:5	第一の月 (ニサン)	14日	3~4月	受難
	②種なしパンの祭り (除酵祭)	23:6~8	第一の月	15~21日 (7日間)	3~4月	贖罪
	③初穂の祭り	23:10~ 14	第一の月	除酵祭の 安息日翌日	3~4月	復活
	④五旬節の祭り (ペンテコステ)	23:15~ 21	第三の月 (シワン)	初穂祭の 50日後	5~6月	聖霊降臨
夏期	中間期	23:22				世界宣教 (教会時代)
秋の祭り メシアの再臨	⑤ラツパの祭り	23:24~ 25	第七の月 (ティシュリ)	第一日目 (新月の日)	9~10月	携拳 (空中再臨)
	⑥贖罪の日 (ヨムキプール)	23:27~ 32	第七の月	10日	9~10月	大艱難時代
	⑦仮庵の祭り	23:34~ 43	第七の月	15日	9~10月	千年王国 (再臨)

50日間

4ヶ月

14日間

※「さて、過越の祭りといわれる、種なしパンの祝いが近づいていた。ルカ22:1」

【イスラエルの祭りが教える、メシアの初臨と再臨】

■メシアは、二度、来られる。

➡**初臨**の一度目は、受難の僕として来られ、罪なき子羊として、十字架の血でイスラエルの罪を贖われ、葬られ、復活された。

➡**再臨**の二度目は、王の王、裁き主として来られる。

栄光の姿で来られ、すべての悪を裁き、世界を回復される。

■初臨と再臨の間の空白期が、今の教会時代。

十字架の贖いの業は完全に成し遂げられ、主イエスは、天で私たちの大祭司として、神への完全なとりなしをされている。

➡**私たちは、王なるキリストの再臨を待ち望んでいる。**

【今、私たちが主を待ち望みつつ、なすべきこと】

「ヨハ 4:35 あなたがたは、『まだ四か月あって、それから刈り入れた』
と言ってはいませんか。しかし、あなたがたに言います。目を上げて
畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。」

- 中間期は、ただ、ぼ〜っと、キリストを待つ時ではない。
 - ➡この間にも、多くの実りがあり、収穫の時を待っている。
 - ➡救われるべき多くの魂があり、福音を、命の御言葉を待ち望んでいる、多くの人々がいる。
- 福音をたずさえて、遣わされて行こう。御言葉を解き明かそう！
あなたを待っている人が、そこに必ずいるから!!

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

主イエスは来(こ)られ、み業(わざ)をなしとげられました。私たちは、主の再(ふたたび)来(こ)られる時(とき)をまちのぞみつつ、福音(ふくいん)をたずさえて、つかわされます。

よろこびもって、ここから送(おく)り出(だ)してください。切(せつ)に救(すく)いを求(もと)める魂(たましい)と出会(であ)わせてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」